

序

当研究所が、昭和51年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、原稿を募集しましたところ、各校の先生方から8編の原稿をお寄せいただきました。本年は、8編のうち1編が論説、7編が実践記録となっています。

本年の実践記録の特色は、学校の全職員による研究やその継続研究が多くなっているように思われます。

東小学校が昭和50年に情緒障害学級を開設し、今回は第2年次として論文をまとめられました。

三重小学校は、市教委指定の児童指導研究学校としての研究が50年度で終了しましたが、その成果の上に立って実践が進められています。

松田小学校は小規模学校の特色を生かしながら、8年間にわたる継続研究を行い、独自の方式を編み出しました。

小俣小学校は、昭和46年から、ティーム・ティーチングの実施に踏み切り、児童の向性に応じた指導を行なうなど学習指導方法の改善に工夫のあとがみられます。

第一中学校は、昭和50・51年度文部省指定道徳教育協同推進校として、他の3校とともに本市道徳教育の推進力となってきました。

第二中学校は、昨年度から学習意欲の問題に取り組み、初年次の研究については、すでに昭和50年度の教育論文集に掲載されてあります。

いずれの論文も、最近の教育思潮の動向を敏感に把握しながら、しかも腰をすえて教育の原点を探るといふ様子が伺われます。このような先生方の姿勢こそ、今後の新しい足利の教育を築く大きな原動力になるのではないかと大きな期待を感じております。

以上、各先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待致します。

終わりに、論文をお寄せくださった先生方をはじめ関係者の方々にお礼申し上げますとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序と致します。

昭和52年3月

足利市立教育研究所長 高橋 黄 未